

DIニュース



保存 訂正版

NO.122 発行日 2011.4.28

第二中央病院薬剤課

今月のトピック

泌尿器科の薬紹介

高齢の患者さんでは排尿障害を抱えている人も多く、泌尿器科を受診されてお薬を飲まれている患者さんも多いと思います。今回は、泌尿器科のお薬について紹介します。

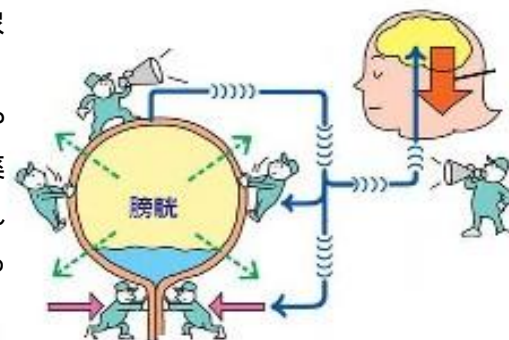
排尿障害といっても、排尿困難や残尿感、頻尿、尿漏れ、など症状は色々ありますが、①**畜尿障害**と②**排出障害**に大きく分けられます。

排尿の仕組みについて

尿は腎臓で作られ、ある一定まで膀胱で貯められたあと排泄されます。1日の腎臓で作られる量は、1～1.5リットル程度で、だいたい膀胱には200～300ccくらいためることができます。正常な1日の排尿回数は、昼間は5～7回 夜間(布団に入ってから朝起きるまで)0～1回程度といわれています。

①**畜尿障害**とは、膀胱に尿を貯めておくことが出来なくなるため頻尿や尿失禁などの症状があらわれます。

膀胱を弛緩し膀胱用量を増大させる作用(抗コリン作用)のある薬や膀胱過緊張状態を抑え排尿を抑制する作用(Ca拮抗作用)のある薬が処方されます。抗コリン薬では排尿時の膀胱収縮作用が抑制されて排尿障害や尿閉になってしまうことがあります。**口渇**や**便秘**といった副作用も多いため服用中は注意が必要です。



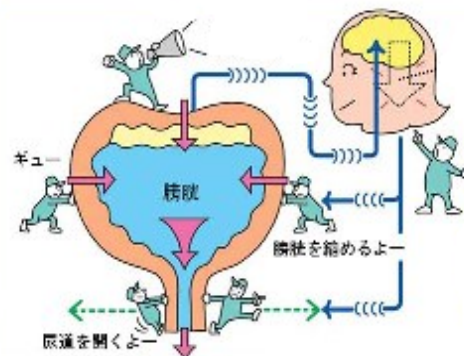
薬剤名		常用量	その他
抗コリン作用 + Ca拮抗作用	バップペリン錠 10mg	1日1回20mg 最大40mgまで 高齢では、1回10mgから開始	肝障害には慎重に (肝代謝)
	ポラキス錠 2mg	1日3回 1回2～3mg 高齢では、1回1mgから開始	眠気の副作用あり
抗コリン作用	ベシケア錠 5mg	1日1回5mg 最大10mgまで Ccr<30or 中等度肝障害:1日1回2.5mgから開始 最大5mgまで	CYP3A4で代謝 相互作用注意
	デトルシール Cap 4mg	1日1回4mg 腎障害、肝障害、CYP3A4阻害薬併用時:2mg	CYP3A4で代謝 相互作用注意
その他	ブラダロン錠	1日3回 1回錠	腸管運動抑制 消化管閉塞に禁忌

②**排出障害**とは、何らかの原因で尿道が狭くなり尿をうまく排泄出来なくなるため排尿困難やそれに伴う残尿感などの症状があらわれます。膀胱が充満しているが排尿困難により尿漏れを起こす場合もあります。また、男性では年齢とともに前立腺の肥大により尿道が圧迫され排尿困難となる場合があります。

膀胱を収縮させ排尿を促す薬や尿筋を弛緩させ尿を出しやすくする薬が使われます。膀胱収縮増強作用(コリン作動性作用)のある薬や、尿道を弛緩される作用($\alpha 1$ 受容体拮抗作用)のある薬などがあります。

他には、前立腺肥大を防止するための薬や抗アンドロゲン作用のある薬などが処方されます。 $\alpha 1$ 受容体拮抗薬では、血圧低下などの服用に注意する必要があります。

高齢者では、畜尿障害と排出障害の両方を抱えている人もいます。そのため、抗コリン薬と $\alpha 1$ 受容体拮抗薬を併用していることもあります。



薬剤名		常用量	その他
コリン作動性薬	ベサコリン散	1日3~4回 1回30~50mg 最大20mg/回 60mg/日まで	消化性潰瘍、閉塞に禁忌
ChE 阻害薬	ウブレチド錠 5mg	排尿障害には、1日1回5mg 重症筋無力症には、1日5~20mgを1~4回	コリン作動性クリーゼに注意
$\alpha 1$ 受容体遮断薬	タムスロシン Cap 0.1mg、0.2mg	1日1回0.2mg 高齢では、1回0.1mgより開始 最大0.2mgまで	副作用に起立性低血圧あり 血圧降下薬併用時は注意必要
	フリバス錠 OD 25mg、75mg	初め1日1回25mg 最大75mgまで 効果不十分には1~2週間の間隔で漸増 高齢では、12.5mgより開始	
	ユリーフ錠 4mg	1日2回 1回4mg 肝機能障害、腎機能障害時は、2mgから開始	
	エブランチル Cap 15mg	初め1日2回 1回15mg 最大90mgまで 効果不十分には1~2週間の間隔で漸増	
抗アンドロゲン薬	プロステール L 錠 50mg	1日1回50mg 16週間を基準とし、以後漫然と投与しない	投与中は、定期的に肝機能チェック必要
	アボルブ Cap 0.5mg	1日1回0.5mg	経皮吸収するため、一包化できない
その他	エビプロスタット DB 錠	1日3回 1回1錠	

質問コーナー

Q.お薬で排尿困難になってしまいますことはありますか？

A.風邪薬などでも排尿困難や尿閉を起こすことがあります。特に、抗コリン作用を持つお薬に多くみられます。例、ペレックス顆粒(風邪薬)、ジソピラミド錠(抗不整脈薬)、ポラミン、ニボラジン(抗アレルギー薬)、トリプタノール、アナフラニール(抗うつ薬)、ピレチア、テグレトール(抗精神薬)、ミオナール、リオレサール(中枢性筋弛緩薬)、リズミック、メトリジン(低血圧症薬)などがあります。

Q.抗コリン薬では、どのような副作用がありますか？

A.口渇や便秘、排尿困難などがあります。頻脈を起こす可能性もあり重篤な心疾患へは禁忌となっています。パーキンソン病や認知症が悪化することもあります。